

1. 評価結果概要表

平成19年 11月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800549
法人名	社会福祉法人 梓の郷
事業所名	グループホームサルビア
所在地	長野県松本市梓川倭3234番地15 (電話) 0263-78-7288

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(19年 11月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人	非常勤1人 常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (11月 1日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		要介護2			
要介護3	6名	要介護4		1名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 岡野医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは窓外に望める北アルプス連峰と梓の清流、四季の移ろいを肌で感じられる町にあり、介護老人福祉施設に併設して明確な理念の基、互いに連携を取り合い福祉サービスの質の向上に向け取り組まれている。管理者は職員と共に築かれたホーム独自の具体的な理念を基に、入居者本位、個別支援、自立支援の徹底を図り、入居者の思いを尊重し、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援に取り組まれると共に、入居者の安全確保、健康管理、生活環境等への配慮に努められている。入居者は大変明るく、訪問当日も「こちらへどうぞ掛けて下さい」と招いていただき、過ぎし遠い昔話を楽しく話される等、時間にとらわれることなく安心感を持ってゆったりと過ごされている。お互いをいたわり合う言葉掛けも見られ、生活習慣が身につけており、職員の日頃よりの質の良いケアの結果と思われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>気軽に入れる玄関まわりについては、玄関脇の生垣に沿って草花が植えられ家庭的な雰囲気が見られた。日中は玄関の施錠はされていない。(職員が手薄状態の時は一時的に鍵をかけられている)緊急対応マニュアル・感染症対策マニュアルの整備がされた。職員の経験や力量にあった外部研修・内部研修が実施されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義や目的を全職員に周知を図り、自己評価にあたり職員会議において職員全員で取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、ご家族、地域住民、行政の担当職員等幅広い立場の方々が出席し、定期的に開催されている。ホーム側より月々の状況報告(行事報告等)をして、出席者より意見、要望を聞き話し合い、サービス提供に向け活かした取り組みがされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会や運営推進会議において、ご家族の意見や要望が表出できる場面づくりに配慮されている。またホームへ訪問時には管理者が現況を報告すると共に、ご家族より要望を伺いケアサービスに反映されている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は、地域の自治会に出席し、ホームへの理解を頂く為に現況説明をされている。また職員が防災と福祉を考える会(地区の集会)等に出席し、地域の方々と共に防災について話し合い交流を持たれている。なお地区の子供による訪問演奏会や中学生・高校生・一般の方々等、多くのボランティアの訪問を受けホームへの理解と連携が図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設理念とは別に、ホーム独自の理念を新しい管理者の下、職員と共に具体的な理念の構築に努められている。	○	今後更に地域密着型サービスとしての役割を反映した理念の内容になるよう期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の作成が全職員で行われており、理念の共有化が図られて日常のケアサービスに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は自治会へ出向きホームへの理解が得られるよう努めると共に、防災と福祉を考える会に出席して地域との関わりを大切にされている。入居者は地域のお祭りやシルバーの集い等に参加されている。またホームへ地区の子供による訪問演奏会や老大傾聴ボランティアによる紙芝居や歌が披露され、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より自己評価の目的や意義等が説明され、自己評価にあたり職員全員でかかわり、ホームのケアサービスの改善に努められている。		

グループホーム サルビア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族、包括支援センター、民生委員、ホーム職員等の参加により定期的に開催されている。認知症への理解を頂くためにホーム側からお話をすると共に、月々の行事報告や活動状況が報告されている。なお参加者より質問、要望、意見を聞き話し合い、ホームのケアサービスの質の向上に取り組まれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に市のグループホーム全施設が集まり、グループホーム指導を受けられたり、地域と福祉を考える会等に出席し交流を図りサービスの向上に努められている。	○	今後更に認知症予防教室等を積極的に受諾して、市との連携を図られることを望みます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回お便りを発送すると共に金銭管理状況の報告がされている。なおご家族訪問時に入居者の近況報告等が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議において、ご家族が意見や要望を表出できる場面づくりに配慮されている。またご家族がホーム訪問時に入居者の近況説明や要望を伺い、職員間で話し合われケアサービスに反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体として介護技術等向上目的で定期的(年1回)に、ホーム職員8名の内1名が特養と入れ替わられている。ご家族がホーム訪問時に新任の挨拶をされると共に、サルビア新聞にて新任職員の紹介を載せ配布をし、周知が図られている。	○	利用者と職員との馴染みの関係を重視し、職員の異動・離職を最小限に抑えるための対応が望まれます。

グループホーム サルビア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に積極的に参加し、研修後全職員へ内容の周知が図られている。なお併設施設の勉強会やホーム内の月1回の勉強会により職員の質の確保・向上に向けた取り組みがされている。なおチューター制度を利用し新人育成に努められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流を持たれ、相互研修により各ホームの工夫点を見出すことが出来、ホームサービスの質の向上に活かされている。なお情報交換により同業者同士の連携が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家とホームを行き来しながら馴染みの関係を築きつつ、入居者が安心感を持って入居できるよう支援がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に買い物をし、食事作りや漬物(梅干し、大根漬け、野沢菜漬け等)を共にして、人生の大先輩である入居者の経験と知恵をお借りする等、支え支えられる場面を多く持てるよう配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情を見て気持ちを察知、入居者の日常の習性をとらえて意向に応じられている。(花の好きな方には、花屋さんを見てから食事をされる等入居者の意向を大切にされている)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催して入居者一人ひとりのモニタリングが行われている。なおご家族の面会時に意向を聞き介護計画に反映されている。	○	入居者一人ひとりにそったきめ細かいケアを必要とするグループホームでは、なんら状態変化が見られなくても最低3ヶ月に1回の見直しが望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認して、ご家族の要望を聞き入れつつ、入居者の状態に応じた介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の都合により通院介助が出来ない時には、ご家族に代わって通院介助や入居者の状況に応じ、お墓参りの送迎も行われている。なお遠方から見えたとご家族に宿泊の支援もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の意思を大切に、入居者の主治医により定期受診や往診など継続受診が受けられる支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、ご家族の意向を伺った上で、ご家族、職員、医療との話し合いを持ち、重度化に伴う意思確認書を作成し条件が整えば看取りも考慮されている事を伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を保持しつつ、入居者一人ひとりに合った言葉掛けに配慮されている。なお個人情報に繋がる書類、記録簿等については管理の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるものの、入居者の状態に合わせて起床時間や食事時間等、入居者のペース(生活)にそった柔軟な支援が行われている。		

グループホーム サルビア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食への好みを聞き献立を立て、買い物から調理、片付け、食器洗いなど、職員の支援を受けながら行われている。なお職員と一緒に同じテーブルで会話をしながら必要なケアを受けて食事されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏期には夕食後の入浴タイムを取り入れたり、併設施設の大風呂を活用して入居者の希望を聞きながら複数者(2~3人)入浴により楽しまれている。ハーブ、みかん、りんご、バラ湯なども楽しみにされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の日々の状態や力量に合わせて、お茶入れ、食事づくり、盛り付け、片付け、食器洗い、掃除機がけ、洗濯物干し等役割を持って楽しまれている。菜園や花壇づくり、生け花、蕎麦づくり、ピアノを楽しまれると共に、併設施設レク(習字、絵手紙、コーラス等)への参加を楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	業務マニュアル(散歩)や外出マニュアルにもとづき、職員の見守りにより、入居者の希望にそって買い物や散歩、地域の行事等に出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない暮らしの大切さについて認識されており、日中施錠はされていない。しかし職員がフロアに一人となり、かつ介助の為居室に入らなくてはならない状況が生じた時には、一時的に施錠されることを伺った。		

グループホーム サルビア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホームの夜間緊急災害等情報伝達方法一覧表や施設防災マニュアル全体フローを作成し、年2回の避難訓練が行われている。なお日常的に火気検査チェック表や消防用設備の自主点検・検査表を作成して火災予防に努められている。	○	ホームでは介護を必要としている入居者(車椅子使用等)も多く安全に避難して頂く為にも、地域住民にホームの災害時対策に関する理解を頂き、協力体制を築いて行かれる事が望まれます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の会話の中より入居者の好み等をお聞きして献立に反映されている。入居者の体調や運動量、食べるタイミング、介助方法に配慮された支援に努められている。しかし栄養摂取量や水分摂取量の把握がされていない。	○	献立表をもとに定期的に管理栄養士のカロリー計算によるアドバイスや水分摂取量の確認が望まれます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には季節の花が生けられ、ご家族が気軽に訪問できる雰囲気づくりに配慮されている。また廊下、フローには壁掛けが飾られ、各所にソファや椅子が用意され入居者が自由に居場所の選択ができる工夫がされている。浴室、トイレ等身体機能に考慮した仕様となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が馴染み使用されていた生活用品やテレビ、家族写真、仏壇、神棚等が持ち込まれ、思い思いの居心地の良い居室となっている。		

※ ■ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。